

Press Release

問合せ

美術館（担当者：塚田 恵理子、鈴木 俊晴）

（直通）0565-34-3131

豊田市美術館が新たに収蔵した ゲルハルト・リヒターの作品を初公開します

豊田市美術館は、開館30周年を記念し、ドイツ出身で現代美術の最重要作家の一人として世界的に高く評価されているゲルハルト・リヒター（1932年-）の作品を新たに収蔵しました。

今回の収蔵作品は、令和4年10月から令和5年1月にかけて豊田市美術館で開催した企画展「ゲルハルト・リヒター」にも出品された、ガラスを用いた立体作品です。

この度、新たに収蔵した作品を、開館30周年記念コレクション展「星と星図Ⅲ:それぞれの実存」（令和7年12月16日報道発表済み）において初公開します。

また会期中には、専門家による講演会を行うほか、ギャラリートークでは本作品を含めた収蔵品について、担当学芸員が解説を行います。

● 新収蔵作品について

- ・作家名 ゲルハルト・リヒター
- ・作品名 「8枚のガラス」（平成24年制作）
- ・サイズ 幅350×奥行160×高さ230（センチメートル）
- ・購入価格 299,200,000円（税込）

※作品の詳細については別添参照

● 講演会「ゲルハルト・リヒター全解：レイヤー、レディメイド、そしてトラウマ」

- ・とき 令和8年1月17日（土）午後2時～3時30分
- ・ところ 豊田市美術館 講堂（小坂本町8丁目5番地1）
- ・定員 170人（要事前申込、参加無料）
- ・講師 清水穰（しみず みのる）氏（美術評論家）
- ・申込方法 令和8年1月5日（月）正午より申込フォームから申込み



<申込フォーム>

※定員に達し次第受付終了

● 担当学芸員による新収蔵作品のギャラリートーク

- ・とき 令和8年2月8日（日）・3月8日（日） 各日午後3時～3時30分
- ・ところ 豊田市美術館 展示室3
- ・費用 無料（ただし、当日の観覧券が必要）

<参考> 開館30周年記念コレクション展「星と星図Ⅲ:それぞれの実存」

- ・とき 令和8年1月6日（火）～3月15日（日） ※休館日：月曜日（ただし祝日は開館）
- ・ところ 豊田市美術館
- ・プレス内覧会（令和7年12月16日報道発表済み） 令和8年1月8日（月）午後1時～2時

以上（添付資料： 有 写真データ： 有 ）

豊田市美術館 新収蔵作品について

作品概要等	
作品概要	<p>作家名／ゲルハルト・リヒター</p> <p>作品名／8枚のガラス 制作年／2012年</p> <p>サイズ／幅 350cm×奥行 160cm×高さ 230cm</p> <p>購入価格／299,200,000円（税込み）</p>
作家説明	<p>1932年、ドイツ東部、ドレスデンに生まれる。ベルリンの壁が作られる直前、1961年に西ドイツへ移住し、デュッセルドルフ芸術アカデミーで学ぶ。コンラート・フィッシャーやジグマー・ポルケらと「資本主義リアリズム」と呼ばれる運動を展開し、そのなかで写真をそのまま絵画に描き写す「フォト・ペインティング」やカラー・チャートを描いた作品で徐々にその名が知られるようになる。</p> <p>その後、イメージの成立条件を問い直すとともに、第二次世界大戦における自国の過去を扱った作品などを通じて、ドイツ国内のみならず、世界的な評価を得る。ポンピドゥー・センター（パリ、1977年）、テート・ギャラリー（ロンドン、1991年）、ニューヨーク近代美術館（2002年）、テート・モダン（ロンドン、2011年）、メトロポリタン美術館（ニューヨーク、2020年）など、世界の名だたる美術館で個展を開催。現代で最も重要な画家としての地位を不動のものとしている。日本では2022-23年に東京国立近代美術館および豊田市美術館にて個展を開催し、当館では海外の現代作家の個展としては異例の47,000人余の集客を得た。</p>
見どころ	<ul style="list-style-type: none"> ・本作品は、リヒターが1960年代から継続しているガラス作品シリーズの1点。ガラスは、リヒターが活動の最初期より、イメージを映し出す原型を示す物質として用いてきた。 ・自立型の作品は10点ほどで、いずれも世界の主要な美術館が所蔵している。本作品は、反射率の高いガラスが角度を変えて並んでいる点が他のガラス作品と比べて特徴的な1点である。 ・周囲の景色や作品がガラスに映り込み、独特の視覚効果を生み出し、美術の専門的な知識がなくとも、視覚的に楽しむことができる。 ・ガラスと鉄の組み合わせには工業製品のようなたたずまいがあり、豊田市美術館の建築とも親和性が高い。



ゲルハルト・リヒター 《8枚のガラス》
2012年 ©Gerhard Richter, 2026
※新収蔵作品は手前のガラス作品です